

きょうかん賞

「どんなときでもあなたの味方」

玉岡 信子さん（京都市右京区）

子供の幸せとはなんだろう。

いい学校に入り有名な会社に就職することだろうか。私はそれよりも「自分は大切に思われている。」と実感することではないかと思う。

今、私たち親に必要なことは「勉強しなさい。」と子供をせきたてることではなく、ただだまって見守ってやることだと思う。信頼されていれば子供は責任ある行動をとるようになる。押しつけがなければ子供の向上心は育ち勉強もおのずと伸びて行く。

親がテレビを消し読書をすればごく自然に家庭はそのようになる。テレビのない食卓で命の大切さ、人として大事なこと、平和のありがたさ、世界に目を向ける必要性などその折々に親子で語り合うことができる。

団欒の会話の中で子供は心のバランス感覚を身につけて行くのだろう。そうして携帯電話やインターネットに限らずこれから出会うどんな事柄に対しても節度ある態度が取れるようになるのではないだろうか。

私が子供に伝えたいメッセージは「なにがあってもお母さんはあなたの味方。」その一言に尽きる。子供は失敗もするしまちがうこともあるだろう。その失敗やまちがいを肯定するのではなく一緒にあやまること、共に償うことをも含めどんなときでも子供の味方でありたいと思う。

自分を大切に思ってくれる人がいること。そのことを確信できれば子供の心はまっすぐ強く育つのだと信じている。